

# OTOGAWA

おとがわプロジェクトとは——1. 都市の持続的な経営、2. 良質な都市空間の維持・創出、  
3. 民間が主導する官民連携まちづくりを目標に掲げ、岡崎市の中心部を流れる水辺空間の活用と歴史文化遺産を活かした  
観光産業都市の創造とコンパクトシティの実現を目指すプロジェクトです。

 おとがわプロジェクト Q

自分たちの  
まちが  
でもあるまで

# GRAND DESIGN

OTOGAWA  
PROJECT

OTOGAWA GRAND DESIGN Log

自分たちのまちがでもあるまで」とは、  
岡崎市が主導する観光産業都市の創造と  
コンパクトシティの実現を目指す  
官民連携プロジェクトの記録集です。

第一号となる本号では、  
「観光・文化・暮らし・商業」に  
焦点を定めて動き出した  
「おとがわプロジェクト」の幕開けとなる  
「キックオフフォーラム」、

大阪での先進的な  
水辺活用事業を学ぶ「シンポジウム」

学生らによる中央緑道・太陽の城跡地の  
活用を検討した「岡崎デザインシャレット」を収録。

CONTENTS  
01 KICK-OFF FORUM | キックオフフォーラム  
02 SYMPOSIUM | シンポジウム  
03 OKAZAKI DESIGN CHARETTE | 岡崎デザインシャレット  
NEXT EVENT | これからのお役立ツ

Vol.

# キックオフフォーラム 新しい岡崎の 風格をつくる

高齢化、中心市街地の空洞化、そして来るべき都市間競争を乗り越えるべく、東岡崎から康生に至る乙川周辺地区を対象としたまちづくり「乙川リバーフロント地区整備計画」が、これから5カ年の予定で始まります。本計画の先にある街の将来像をどのように描いていくべきでしょうか。それは誰が、どのように実現していくべきでしょうか。本フォーラムは、この街の将来像を描く最初の一歩となりました。

## パネリスト

内田康宏 | Yasuhiro Uchida

岡崎市市長

清水義次 | Yoshitsugu Shimizu

建築・都市・地域再生プロデューサー/

アフタヌーンサエティ代表

白井宏幸 | Hiroyuki Shirai

NPO法人21世紀を創る会・みかわ

岡崎活性化本部事務局長

松井洋一郎 | Yoichiro Matsui

株式会社 まちづくり岡崎 代表取締役

天野裕 | Yutaka Amano

NPO法人岡崎まち育てセンター・りた事務局長

## モデレーター

藤村龍至 | Ryuji Fujimura

建築家/東洋大学専任講師

日時: 2015年7月12日[日]18:30-20:30

会場: 図書館交流プラザりぶら1階ホール

## 官民連携の新しいスタイルとは

藤村 | 内田市長はこの乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業(おとがわプロジェクト)のあるべき姿についてどのようにお考えでしょうか。

内田 | 私が達成しようとするおとがわプロジェクトというのは、駅前の開発から河川空間の活用、市街地の再開発、さらには岡崎城を含んだ観光都市整備という岡崎が持つ財産をすべてまとめて活用していくというものです。単にハード事業を進めているだけだと批判も多いのですが、実際は、ソフト事業に対して、民間事業者に大きく関わっていただくことによって新しいまちづくりに繋げていきたいと考えています。民間から資金を集めて行政の負担を減らしてハード事業をすすめるという従来の官民連携のスタイルを改め、これからリバーフロント地区では、行政が所有する施設や敷地などを民間の方に最大限活用してもら

う。行政は、しっかりと収益を上げる事業を後押しし、きちんと税収が街に落ちるといった民を主体とした取り組みにシフトしていきたい。

## 主導する民間、 後方支援する行政へ

藤村 | 清水さん、全国で自治体の活動を支援している立場から今の市長のご意見をどのようにお聞きになったでしょうか。

清水 | 自治財源が縮小している自治体が増加している中で、民間事業を後押しするかたちで税収を上げる行政のあり方は今の時代にまさに必要とされていることです。従来のように行政がつくり、行政が面倒を見てくれるんだと市民の方は思わないで下さい。自分たち市民がこの場所の最大の利用者ですから、民間が主体的に責任をもって活動を行なう。その時にも規制がかかるならば、行政は国と交渉して緩和していただく。これは行政でなくてはできない役割なので、是非、市長さんよろしくお願いします。

## 都市経営の観点から見る まちづくりNPOの役割

藤村 | 都市経営の観点から、行政と民間の関係が変わってきているということですね。今後、民間主導のまちづくりを進めるにあたって、地元で活動される三人はどうにお考えでしょうか。

松井 | 岡崎経済の主軸であるものづくり産業に加え、歴史的文化資産や自然環境を活用した観光産業も大切だと考えています。個店の商売繁盛へ繋ぐための自主努力を中心におきながら街の再生にむけた雰囲気づくり、公共、民間の空き地を活用して街の価値を向上させるような取り組みを実施できる人材を、地元の岡崎から創出できるように努めています。

白井 | モノを消費するのではなくて感動・喜び・体験の時間を消費していくことが大事だと捉えています。現在、乙川で観光船の復活に向けて取り組んでいるのですが、他にもここにいる皆さんのやりたいと言う思いと一緒に実現していきたいです。街の人や外から来た人たちが幸せだと感じる体験を生み出

すために。

天野 | 規制することから規制緩和へと行政の仕事が移りつつあるということは、私たちに意思決定のバトンが渡されつつあるということです。これまで官と民の間で中立的な対応を意識していたのですが、自分と一緒にアクセルを踏んでいこうと覚悟を決めています。その時に抽象的なイメージや言葉だけで対話をするのではなく、具体的なテーマやイメージ、事業計画などを用了したコミュニケーションまで踏み込むことを意識していきたいです。

## 『都市の風格をつくる』対話とは

藤村 | 皆さんは対話型、あるいは公開型の官民連携についてお話をされていたと思います。今後、公共空間の土地活用についての学生ワークショップ『岡崎デザインシャレット』が実施されますが、まちづくりの一環で遊休不動産の活用を実施されている清水さんから見て、どのような対話をすることが大切だとお考えでしょうか。

清水 | 時間消費の話が白井さんからありましたが、どのように歩いて楽しめる街にするのかということを多様な目線で盛り込んでいくことです。リバーフロント、橋、シンボルロード、籠田公園、康生地区、岡崎城という魅力的なスポットはありますが、面的につながっているかと言われたらそうではない。これはすごくもったいないことです。食事や宿泊も含めて、スポットをつなげてゆっくり楽しむためにはどのような場所があるといいのだろうか、ということはひとつのポイントです。

内田 | 歴代の市長や岡崎のまちづくりに取り組んできたみなさんが提案してくださったアイデアをトータルで実現するまたとない機会です。現在、国土交通省では「かわまちづくり事業」「歴史まちづくり事業」さらに「地方創生」という国の追い風も吹き、交付金も期待できる状況のなか、このチャンスに「今やらずしていつやるのか!」と考えています。乙川リバーフロント地区のまちづくりは私の天命だと思い、取り組んで参ります。ぜひみなさんと一緒に実現していきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。



天野 | 規制することから規制緩和へと行政の仕事が移りつつあるということは、私たちに意思決定のバトンが渡されつつあるということです。これまで官と民の間で中立的な対応を意識していたのですが、自分と一緒にアクセルを踏んでいこうと覚悟を決めています。その時に抽象的なイメージや言葉だけで対話をするのではなく、具体的なテーマやイメージ、事業計画などを用了したコミュニケーションまで踏み込むことを意識していきたいです。

# シンポジウム 河川から考える 岡崎の将来像

乙川リバーフロント地区のまちづくり推進に向け、水辺空間に関わる都市プランナーの泉英明氏をお招きし、河川空間を活かしたまちづくりを学ぶシンポジウムが開催した。「水都大阪」に代表される水辺の公共空間を活用した事業で作り手と使い手の間をつなぐ泉氏から、実験と検証を繰り返しながら民間と行政を巻き込んでいくこと、参加の輪を広げる仕組みづくりの重要性が指摘された。

## パネリスト

泉英明 | Hideaki Izumi

有限会社ハートビートプラン代表取締役/  
NPO法人もうひとつの旅クラブ理事/  
一般社団法人水都大阪パートナーズプロデューサー

## モデレーター

藤村龍至 | Ryuji Fujimura

建築家/東洋大学専任講師

日時: 2015年8月2日[日]14:00-16:00  
会場: 名鉄東岡崎駅岡ビル百貨店3階

## 河川から考える大阪

泉 | 90年代以降、大阪本社企業の東京移転が進むなど企業の本社機能の東京移転が進み、大阪の経済的な地盤沈下が顕著になっていきました。そこで、2001年から、暮らしの場で大阪のアイデンティティである水辺を活用し、「水の都」として大阪を再び盛り上げようと、大阪府と大阪市、経済界が手を組み、「水都大阪」という都市再生プロジェクトが始まりました。当初は、まちの魅力を創出する行政のハード整備を軸にしていました。並行して、私はNPOの仲間や地域の方と共に、水辺を使いこなすアイディアを考案し、合法的に実現できるか行政と協議しながら様々な社会的実験を行ってきました。たとえば、2003年には、川辺に台船を停泊しカフェにする「社会実験リバーカフェ」を実施しました。行政に対する規制緩和の働きかけなどの準備に半年を要しましたが、17日という期間で多くのお客さんが訪れ、かかった経費は回収することができました。また、京都のような川床を大阪でも実現できないかと考え、ニーズを調査したところ、川沿いのビルオーナーやテナントに希望者がいることがわ

かりました。その人たちとチームを作って試行錯誤し、期間限定で川床を設置したところ、大きな反響があり、常設化を望む声が上がりました。常設化に向けて、責任ある地元運営の仕組みを働きかけ、実現したのが「北浜テラス」です。3店舗で始まった実験は、今では常設の12店舗となり、それまで川に背を向けていたビルも川側に開かれるようになり、ガイドブックに掲載される人気エリアとなったのです。

## 具体的なまちづくりへ

泉 | 行政によるハード整備の進捗に伴い、継続できるコンテンツや担い手の充実を図るべく、2009年に「水都大阪2009」というイベントが開催されました。企画は市民提案を募り、多くの市民が企画・実施、イベントの運営に関わることで、大いに盛り上がりました。以後、イベントを通じて水辺を日常的に使いこなす人が生まれてきました。

2013年には、一般社団法人「水都大阪パートナーズ」が立ち上がり、民間事業や国内外発信を具現化していく段階へと移っていき、私はプロデューサーとして関わっています。例えば、市役所の前の中之島公園で5ヶ月実施する「中之島オーブンテラス」「グリーンマーケット」では、出展企業を公募し、新たなサービスを提供し、継続への検証を行っています。かつて税関や居留地があった中之島GATEというエリアでは、アクセスが悪いというマイナス面に対し、物流コストが安い、中央卸売市場の正面で食のブランドが打ち出しやすいといったプラス面をアピールして事業者を探し、社会実験を経て、晴れて活魚市場と食堂からなる常設の「中之島漁港」がオープンしました。

私たちの役割は、場所の特性を踏まえて、具体的な活用提案や規制緩和の調整から、整備事業の実現性の検証、エリアマネジメントなど都市経営を遂行できる環境を整えるまで多岐にわたります。

## プレイヤー・ソーター・レポーター

藤村 | 昨今のまちづくり事業では、水都大阪の事例のように、人が集まって議論を重ね、それが具体的な事業にフィードバックされ、最終的に官民連携するプロジェクトとして始動するというプロセスが開発のひとつ定番になりました。泉さんが手がけるプロジェクトには、実際、どのような方々が運営に参加されているのでしょうか。

泉 | 水都大阪では、アイデアを出して自分たち



で運営するプレイヤー、運営の手伝いを行うサポート、運営団体をインタビューし魅力を伝えるレポーター、という区分けで募集を行いました。20代、30代の社会人はレポーター・サポート参加が多く、サークルでこれをやりたいとプレイヤーとして参加されている50代以上の元気な方もおられます。

## 実験と検証を繰り返した 「水都大阪」

藤村 | おとがわプロジェクトでは、先にある程度予算化が進行しているなかで何を実行するのかを検討しているのですが、多様な参加者との提案を通して予算化と政策化が進んだ水都大阪では、プロセスを進行していく際にどのようなことを注意されていたのでしょうか。

泉 | まずは大きく4年間の工程を考え、毎年に仮説と事業プランを考えていきます。そこでは詳細は決定せず、担い手を見つけてから事業性や採算性を詰めています。やはり民間のニーズがないところには、行政も税金は投入しませんし、プロポーザルにも及ばず次のステップに進めません。当初は予算がなかった水都大阪も公金やスポンサー企業からの協賛金を得てマネジメントする、限られた資源や期間の中でどう優先順位をつけるのかが大切だと思います。

藤村 | 泉さんのお話の中で印象的だったのは、民間が主体となった仮設のイベントを実施した上で行政や企業を巻き込んで徐々に制度化され日常的なプロジェクトとなっていく段階を踏んでいるという事、また、そのイベントにただ来るだけの人がレポートする人になり、ボランティアとしてサポートする人になり、最後はそれを実際企画するプレイヤーになつていくと段階的に広がりが生まれていることだと感じました。岡崎でもこうした活動を参考しながら展開できればと思います。



# 岡崎デザインシャレット 都市の再生と 活用を提案せよ



岡崎デザインシャレットとは、県内外の大学生が中心となってプロジェクトチームを組み、市民や行政、専門家(チーヤー、ゲストクリエイティック)の意見を参考にしながら、「おとがわプロジェクト」のまちづくりの提案をまとめていく、短期集中型ワークショップです。

籠田公園と乙川を結ぶ緑地化された中央分離帯のあり方を見直す中央緑道再生計画を提案するAグループと、歴史文化遺産を活かした観光振興の拠点となる太陽の城跡地活用計画を提案するBグループがそれぞれ3チームずつ分かれて課題に取り組みました。

次のページから取り組みの過程と最終成果物、そして10-11ページには岡崎デザインシャレットを通して得られた知見をコーディネーターとチーヤーによって中間提言としてまとめられた内容を掲載しています。

**ゲストクリエイティック**  
内藤廣 | Hiroshi Naito  
建築家/東京大学名誉教授  
塙本由晴 | Yoshiharu Tsukamoto  
建築家/アトリエ・ワン/東京工業大学教授  
**チーヤー**  
恒川和久 | Kazuhisa Tsunekawa  
名古屋大学准教授  
間宮晨一 | Shinichi Mamiya  
建築家/愛知淑徳大学講師  
佐々木勝敏 | Katsutoshi Sasaki  
建築家  
岩月美穂 | Miho Iwatsuki  
建築家/studio velocity  
栗原健太郎 | Kentaro Kurihara  
建築家/studio velocity  
福垣淳哉 | Junya Inagaki  
建築家/Eureka  
米澤 隆 | Takashi Yonezawa  
建築家

**橋本健史 | Takeshi Hashimoto**  
建築家/403 architects [dajiba]  
**彌田徹 | Toru Yada**  
建築家/403 architects [dajiba]  
**辻琢磨 | Takuma Tsuji**  
建築家/403 architects [dajiba]  
**浅野翔 | Kakeru Asano**  
デザインリサーチャー  
**ローカル・コーディネーター**  
**天野裕 | Yutaka Amano**  
NPO法人岡崎まち育てセンター・りた  
**山田高広 | Takahiro Yamada**  
NPO法人岡崎まち育てセンター・りた  
**デザイン・コーディネーター**  
**藤村龍至 | Ryuji Fujimura**  
建築家/東洋大学専任講師  
日時:2015年8月2日(日)~8月9日(日)  
会場:名鉄東岡崎駅岡ビル百貨店3階

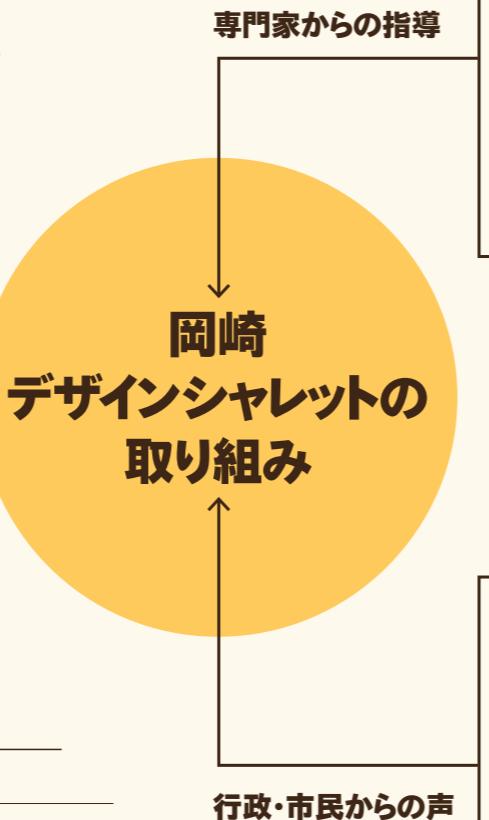


1. パブリック・ミーティングを通じて、市民・行政の意見に耳を傾ける。  
専門家の意見や将来の展望を設計に反映していく。  
2. 内田市長に提案を説明する藤村氏。  
政治的なビジョンと建築が統合され、「都市の風格」をつくりあげる。  
3. ショートレクチャーに加え、塙本氏・内藤氏による講評は提案の質(専門性と市民目線)を高め、まちづくりの指標になることが期待される。

## 中央緑道再生計画とは

東岡崎駅前と康生地区を結ぶ新人道橋の整備を契機に、籠田公園と新人道橋を含めた「中央緑道」のあり方を見直す提案です。  
平成31年度の完成を目指して整備が進められています。

**B**  
**太陽の城跡地活用計画とは**  
観光振興の拠点として計画されるホテルと、観光・交流の場として求められるコンベンションホールやバンケット機能、そして乙川河川敷の様々な利活用の拠点となる川の駅・リバーベースを有した、岡崎の新たな水辺空間活用の提案です。



岡崎デザインシャレット  
参加学生

A 中央緑道再生計画

A-1 川村捺香 [女子美術大学]  
田中匠哉 [名古屋工業大学]  
中村祐太郎 [静岡文化芸術大学]  
三田恭裕 [千葉大学]  
A-2 木村優作 [芝浦工業大学]  
小池 潤 [立命館大学]  
杉浦 舞 [名古屋大学]  
松本義正 [名古屋工業大学]  
A-3 桂川 大 [名古屋工業大学]  
田中祥子 [名古屋工業大学]  
都築美波 [名古屋市立大学]  
野島稔喜 [静岡文化芸術大学]  
濱口結香 [名城大学]

B 太陽の城跡地活用計画

B-1 各務 希 [静岡文化芸術大学]  
鈴木 哲 [豊橋技術科学大学]  
川上周造 [京都大学]  
柴田沙希 [名古屋工業大学]  
高木里美 [稲山女子学園大学]  
長谷川大樹 [名古屋工業大学]  
B-2 梅村樹 [豊橋技術科学大学]  
岩田 悠 [福山女子学園大学]  
櫻井貴祥 [名古屋工業大学]  
鈴木港介 [名城大学]  
出口隆史 [豊橋技術科学大学]  
藤城太一 [名城大学]  
B-3 岩田 悠 [福山女子学園大学]  
海藤綾花 [豊橋技術科学大学]  
小林洸至 [名古屋工業大学]  
辻 幸人 [名古屋学院大学]  
日隈壯一郎 [千葉大学]  
福嶋知子 [愛知淑徳大学]

2015.8.2  
OTOGAWA GRAND DESIGN Log  
Vol.1

運営  
能登谷拓武 [豊橋技術科学大学]  
磯部北斗 [名古屋学院大学]  
海藤綾花 [豊橋技術科学大学]  
小林洸至 [名古屋工業大学]  
辻 幸人 [名古屋学院大学]  
日隈壯一郎 [千葉大学]  
藤田恭輔 [名古屋工業大学]  
福嶋知子 [愛知淑徳大学]

04

## TUTORIAL チュートリアル

学生の提案に対してチーヤー(講師)が指導し、提案を進化させる場です。  
チーヤーは、学生にまちの課題やその解決への気づきを与え、提案の可能性を最大限引き出しています。



## SHORT LECTURE ショートレクチャー

チーヤーの各専門領域に関して30分程度の講義を頂く場です。  
直に課題に取り組むだけでは気づけない部分を補い、  
より広い視野で提案するための知見を養います。

## PUBLIC REVIEW 公開講評会

ゲストクリエイティック(講評者)の方々をお招きし、  
学生の提案を公開の場で講評頂く場です。  
また、パブリックミーティングで寄せられた市民や行政の意見とあわせて、  
専門的な見地を提案に反映させます。

## PUBLIC MEETING パブリックミーティング

デザインシャレット期間中に学生が市民や行政、  
専門家の方々に提案を発表し、意見交換や市民投票を行う場です。  
提案を改善するための多様な視点および  
要望や評価のポイントを可視化させ、提案を進化させます。



05

OTOGAWA GRAND DESIGN Log  
Vol.1

2015.8.9  
OTOGAWA GRAND DESIGN Log  
Vol.1

06

# TASK

タスク

中央緑道再生計画

太陽の城跡地活用計画

チューターコメント

# DAY 1

オリエンテーション  
フィールドワーク

# DAY 2

チュートリアル  
ショートレクチャー

# DAY 3

パブリック・ミーティング  
中間公開講評会

# DAY 4

チュートリアル  
ショートレクチャー

# DAY 5

パブリック・ミーティング

# DAY 6

チュートリアル  
ショートレクチャー

# DAY 7

最終公開講評会

# DAY 8

総合評議会

A-1

A-2

A-3

B-1

B-2

B-3



岡崎のまちを読み解くために  
<集う(A-1, B-1)><歩く(A-2, B-2)><眺める(A-3, B-3)>といったキーワードでカメラを片手に対象敷地周辺を探索し、俯瞰的にまちの「魅力」と「課題」を探集。

それぞれが見出した「課題」と「可能性」を地図上にマッピングし、チューターらを交えて背景に潜む岡崎らしさを議論。<眺める>チームの視点に注目が集まつた。

<集う>  
●課題：  
アクセスと計画のズレ  
●可能性：  
実際の使い方を発見し、有効活用する

<歩く>  
●課題：  
人が行動するための雰囲気・拠り所  
●可能性：  
隠れた情報と捉え方の転換

<眺める>  
●課題：  
アクティビティを発見する情報  
●可能性：  
道の表情

容積率の設定：  
●400%

容積率の設定：  
●300%

容積率の設定：  
●200%

コンセプトの設定：  
●ミュージアム  
●一連の体験重視

コンセプトの設定：  
●町家  
●機能別の配置計画

コンセプトの設定：  
●参道  
●通り抜けを意識

タワーの形状：  
●基壇+タワー  
●住宅・宿泊機能の拡充

タワーの形状：  
●分棟型  
●街の軸線と機能の分配

タワーの形状：  
●L字型  
●川への展望を最大化

機能の配置：  
●展示ボックス分散  
●非日常を差し込む

機能の配置：  
●住宅的な奥行き  
●日常的な機能拡充

機能の配置：  
●等間隔・直線強調  
●全体の統一感を出す

上層部の機能：  
●定住促進するタワー住居  
●展望の良い居住空間

上層部の機能：  
●階段型屋上テラス  
●用途に合わせた利用

上層部の機能：  
●面的な屋上テラス  
●地域にも開かれた利活用

機能ごとの具体化：  
●コの字型展示空間  
●活動ごとに面積を調整

機能ごとの具体化：  
●空間を繋ぐデッキ  
●冗長性を引き出す

機能ごとの具体化：  
●本殿・縁日・門  
●小さな区画を整列

面積表の作成：  
●シングル300室、ファミリー100室  
●タワーを支える巨大構造

面積表の作成：  
●内部空間と天井高の調整  
●周囲の景観に馴染む高さ

面積表の作成：  
●南北方向に伸びる宿泊棟  
●川への行動・視線を最大化

区画ごとのアクティビティ：  
●カフェガーデン・壁・広場  
●中央壁面で自由な利用を想定

区画ごとのアクティビティ：  
●橋側のインフォメーション  
●カフェ  
●日常的な利用シーンの想定

区画ごとのアクティビティ：  
●日常的なマーケット空間  
●大中小の貸出スペース

貸出空間の収益予測：  
●2000人規模の産業イベント  
●住宅賃料

貸出空間の収益予測：  
●1500人規模の音楽イベント  
●宿泊料金

貸出空間の収益予測：  
●川の駅とカフェテラス

Aグループ・Bグループともに最終講評に向けて、これまでの得られた意見要望、専門的な指摘を統合する。

A-1は、緑化された空間と貸出ブースなど区画ごとのつながりを調整すること、A-2は、日常的な賑わいの演出と運営の連携をどのように空間的にサポートするか、A-3は、象徴的なイベント時での具体的な使われ方を空間に反映していくよう進められた。加えて、様々なアクティビティをどのように管理・運営の仕組みのもとで実行するのかなど、細かな配慮を再度確認された。

B-1は、シンボルとなるタワー

の可能性を追求したイメージづくり、B-2は、高さが異なるテラスでのアクティビティを表すイメージづくり、B-3は、河川空間とのつながりを想像できるイメージづくりが進められた。さらにBグループでは、行政と民間事業主がどのように運営するのかを表す情報の整理、採算性を計算することが求められた。

緑道ミュージアム  
●芝生のサークル広場が連なる緑道  
●多彩な展示に対応する円形の壁  
●四天王像を360度から鑑賞

専門家—73/120点満点中  
内藤—8/12点満点中

おとがわ町屋緑道  
●いくつかの部屋に見立てた機能配置  
●新人道橋と籠田公園をデッキでつなぐ  
●籠田公園へ通じる芝生広場の連続性

専門家—93/120点満点中  
内藤—10/12点満点中

PM投票 11

PM投票 30

参道緑道  
●乙川から籠田公園まで石畳の軸を通す  
●往路も復路も正面から観れる四天王像の配置  
●戦災復興の軸としての神聖さを演出

専門家—65/120点満点中  
内藤—6/12点満点中

Otogawa Trinity Towers  
●岡崎一高い120mのシンボルタワー  
●建物の中心に配置された2000人収容の大ホール

Otogawa Terras & Towers  
●周辺タワーと調和のとれたツインタワー  
●乙川河川敷へと繋がる階段状のテラス

Otogawa Sequence Towers  
●全室眺望が優れた西向き配置のホテルタワー  
●河川敷と直接繋がる多彩なテラス

専門家—98/120点満点中  
内藤—10/12点満点中

PM投票 6

PM投票 11

PM投票 22

PM投票 22

専門家による毎日のレクチャーや意見が少しずつ反映され、レベルの高い提案内容を6チームともがまとめることが出来た。【間宮】

市民や行政、学生、建築家がフラットなテーブルの上で意見交換をする様はまちづくりそのものだ。【佐々木】

当たり前に見過ごされている行動の背景を想像することが重要。課題の抽出にとどまらず、可能性を支える提案のあり方を考えて欲しい。【浅野】

行政、NPOや市民に加え、専門家も多数同時に参加する機会を活かし、成果物として提案できるよう取り組んでもらいたい。【橋本】

Aグループでは、敷地条件を読み解き日常的な使われ方を想定するだけではなく、エスティマブルのような非日常的な使い方も想定するよう。【岩月】

Bグループでは、必要な機能に応じて面積を配分し、基本形を更新していく。その時に、どの主体が建設し、運営していくのかを明確にして提案に盛り込むことを意識しよう。【恒川】

Aグループはメタファーをどう捉えたか、空間の構成なのか、展示なのか、何を体験させるか、現状では単調に見える。【米澤】

岡崎城の軸線を意識できている。メインの通りから引きを作るとどうか。【彌田・403】

歴史のある街・岡崎で配慮すべきことは一つではない。防災拠点のようないくつかの日常と日々を両立させる提案のように、複数の配慮を重ねるなかで均衡が見えてくるまで設計すること。川に対する眺めを優先すると川に沿って長い建物が出来てしまい、川からの眺望や風の通り道がなくなる。どちらからも水辺の風景を楽しめる設計をしてみよう。【塙本】

区画面積ごとに採算性を算出する根拠を導き、筋のあるコンセプトとする。周辺環境や利用シーンを具体化してみよう。【栗原】

核となる空間とアクセスを整備し、人の流れを岡崎につくることが目的の事業に対し、専門性のある提案で感心致しました。市長として実現可能なことを踏まえ、一市民としては、夢があるものを選びたい。【内田市長】

容積率ごとにスケール感や収益性を投げかけようとしているはず。与条件の不可避の設定の中で、こういうことが起こるという想定を設計で実践すべき。【福垣】

普段の掃除から災害時のことまで細やかなイメージを共有し、実施できるようになることが公共空間をマネジメントするということ。【山田】

公共用地でお金を稼がないと全体を維持管理できない。だからこそ収益をあげるためにどのような空間とするか、論理的に説明できる準備をしよう。【藤村】

事業区分をどのように分けて、どの事業主がどう運営するのかを建築的に考えるのには非常に複雑です。短い期間で市民の意見をどれほど盛り込んだのかが重要で、もう1週間あれば発展したところもあったでしょう。学生の提案を行政側が受け止め、さらに具体的に調整することが重要です。30年後どのように反映されるのか、期待しています。【内藤】

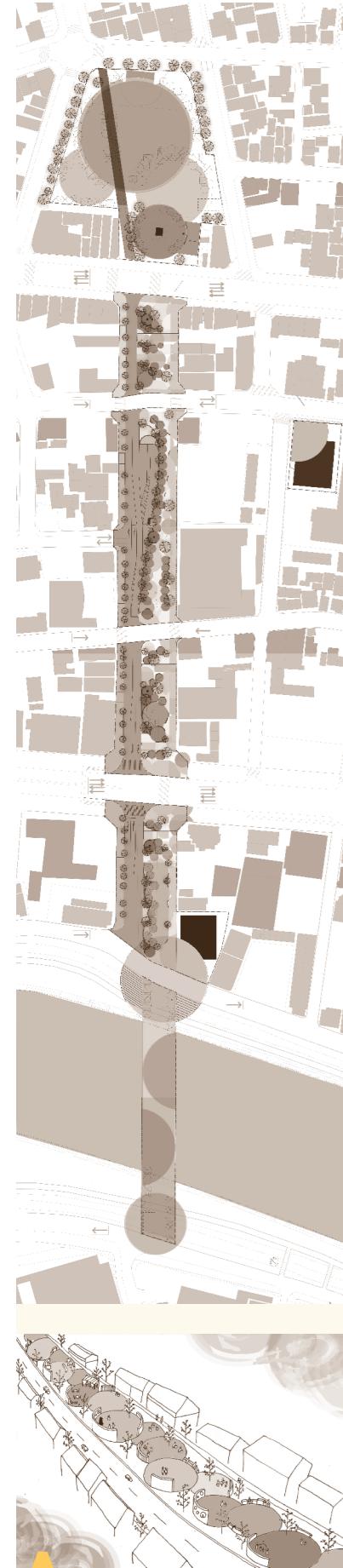
専門家による毎日のレクチャーや意見が少しずつ反映され、レベルの高い提案内容を6チームともがまとめることが出来た。【間宮】

市民や行政、学生、建築家がフラットなテーブルの上で意見交換をする様はまちづくりそのものだ。【佐々木】

岡崎の魅力とどのように連携できるかが重要そうだ。【岡崎】

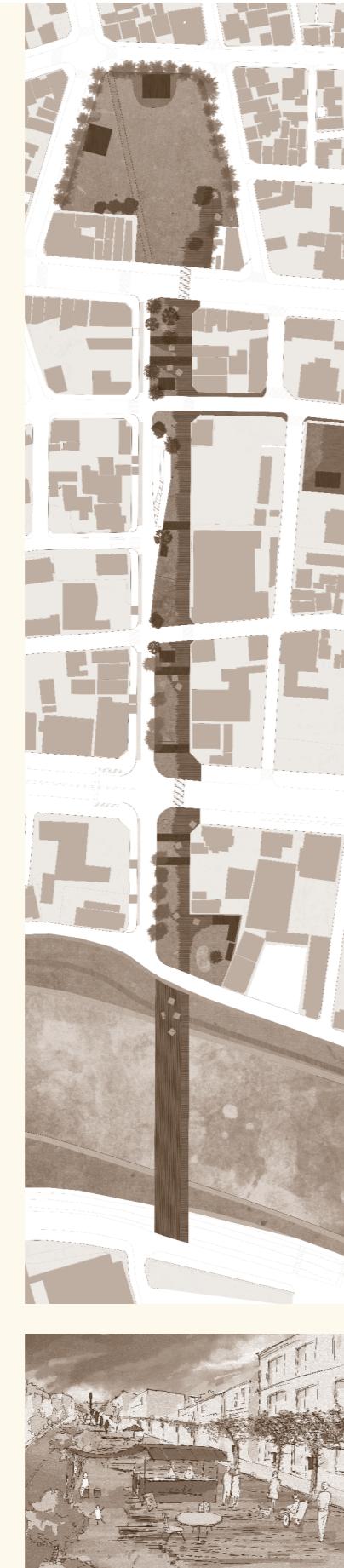
同じ場所でもたくさん  
のアイデアがあることに驚き!

こんな場所ができた  
なにができるかワクワクする!



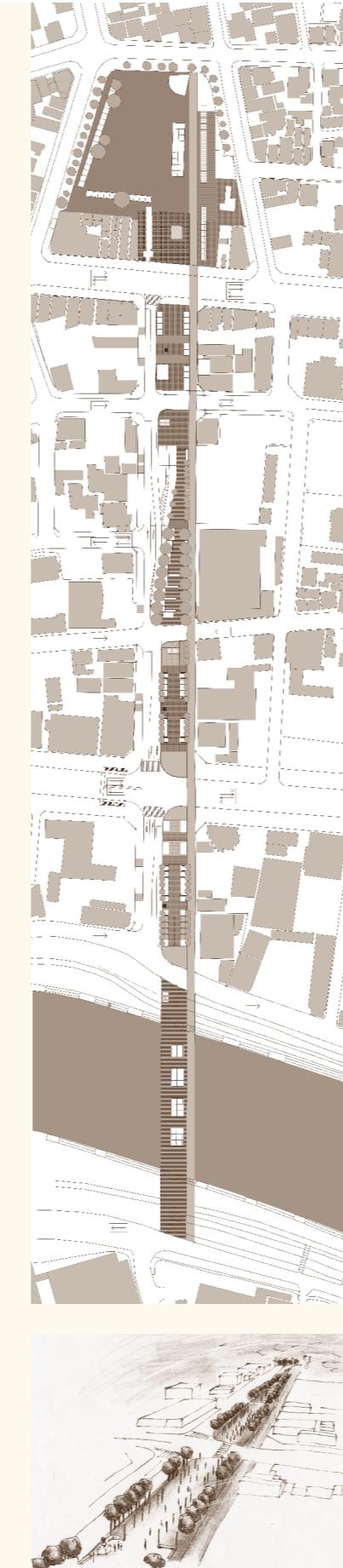
### A-1 | 緑道ミュージアム

- 芝生のサークル広場が連なる緑道
- 多彩な展示に対応する円形の壁
- 四天王像を360度から鑑賞



### A-2 | おとがわ町屋緑道

- いくつかの部屋に見立てた機能配置
- 新人道橋と籠田公園をデッキでつなぐ
- 籠田公園へ通じる芝生広場の連続性



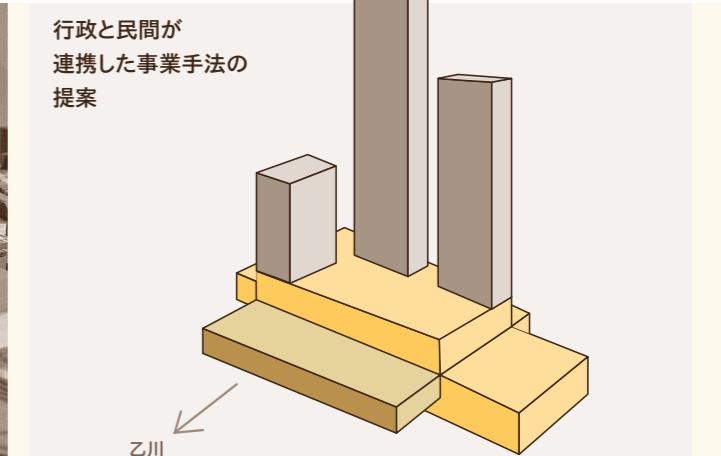
### A-3 | 参道緑道

- 乙川から籠田公園まで石畳の軸(参道)を通す
- 往路も復路も正面から観れる四天王像の配置
- 戦災復興の軸としての神聖さを演出



### B-1 | Otogawa Trinity Towers

- 容積率400%
- 岡崎一高い120mのシンボルタワー
- 建物の中心に配置された2000人収容の大ホール

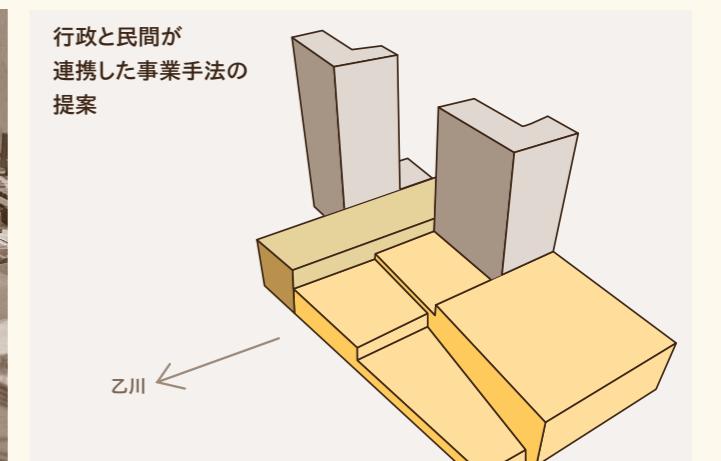


- 行政と民間が連携した事業手法の提案
- 民設民営: ホテル
  - 公設民営: コンベンションホール・バンケット機能
  - 公設公営: 川の駅・リバーベース



### B-2 | Otogawa Terras & Towers

- 容積率300%
- 周辺タワーと調和のとれたツインタワー
- 乙川河川敷へと繋がる階段状のテラス

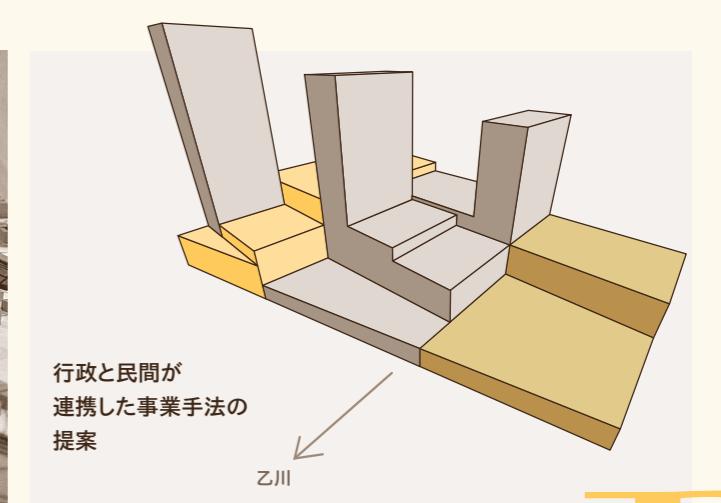


- 行政と民間が連携した事業手法の提案
- 民設民営: ホテル
  - 公設民営: コンベンションホール・バンケット機能
  - 公設公営: 川の駅・リバーベース



### B-3 | Otogawa Sequence Towers

- 容積率200%
- 全室眺望が優れた西向き配置のホテルタワー
- 河川敷と直接繋がる多彩なテラス



- 行政と民間が連携した事業手法の提案
- 民設民営: ホテル
  - 公設民営: コンベンションホール・バンケット機能
  - 公設公営: 川の駅・リバーベース

# 岡崎市乙川リバーフロント地区まちづくりに関する中間提言

岡崎デザインシャレット  
コーディネーター・チーフター一同

私たち 2015年8月2日から9日にかけて開催された

「岡崎デザインシャレット」において得られた知見をもとに、以下の通り提言を行う。

## 【前提】

リバーフロント整備計画は、以下のような目的を明確に発信し、整備されるべきである。

- ・岡崎市にとって 「観光産業都市」として不足している機能を充足し、政策を実現すること
- ・岡崎市民にとって 観光開発による収益効果等によって市民サービスが長期的に向上すること
- ・周辺住民にとって 日常利用によるベンチ・トイレ等が整備されることでアメニティが向上すること
- ・来街者にとって 観光ルートの機能(インフォメーションセンター・カフェ等)と回遊性が向上すること
- ・周辺事業者にとって 来街者の増加による事業収益が向上すること
- ・新規事業者にとって 新規事業参入がしやすくなること

## 【総合提言】

政策を超えて地域的資源を一体的に活用するために、行政と市民のあいだに各種専門的視点を取り込み、外部から見た岡崎市の魅力を高め、一体感を感じられる都市空間としての質の高いデザインを実現するべきである。

ファシリティマネジメントの最適化と利活用の最大化の観点から、整備後における機能の維持・更新を意識した中長期的な計画を立て、民間の事業者と岡崎市の連携による持続可能な体制を検討する。

### [1] 新しい景観軸

#### 「乙川リバーフロントグランドライン」

東岡崎駅から新人道橋を経て中央緑道、籠田公園へ向かうルートを来街者の新しい動線軸として捉え、その連続性、一体性を重視すべきである。

#### [2] 新しい景観軸「21世紀のビスタライン」

吹矢橋公園から岡崎城への眺めを新しい景観軸として捉え、その中継地点となる新人道橋のデザインは来街者の視線を意識し、景観軸線上にある

河川沿道の舗装、照明、建物、植栽、公園の連続性、一体性を重視すべきである。

#### [3] 地区のルールづくり

不動産価値は「エリアの価値」に依存していることに留意し、エリアマネジメントの考え方を導入し、地区計画ある

### いはそれに相当するまちづくりのルールづくりを検討すべきである。特に高い経済波及効果が想定される駅前地区、および最も高い不動産価値の上昇が見込まれる乙川北岸地区、中央緑道沿道は最も優先してルール作りをし、1階に来街者や周辺住民にとっても開かれたオープンスペースの誘導がなされるべきである。

#### [4] 合意形成の手法

市民の合意を形成するために、手法については以下の点について留意すべきである。

- ・複数案を複数回検討し、意見がどのように反映されたか分かること
- ・主な意思決定は検討段階から公開の場でなされること
- ・積極的な情報発信がなされること

### [5] サイン計画

乙川リバーフロント地区は、歴史的資源とこれから整備される現代的な都市空間とが融合した観光産業都市の顔となるエリアであり、人々の回遊動線やシティアイデンティティの観点から、一体的な観光情報のコンセプトのもと統一したサイン計画を検討すべきである。

#### [6] アドバイザー委員会の設置とプロポーザル方式の導入の検討

景観の統一性と連続感を確保するために、各種計画の内容や意匠の方向性等を検討する各種専門家によって組織されるアドバイザー委員会の設置を検討すべきである。また、専門家のアドバイスに基づいて外部から知見を導入するためにプロポーザル方式を導入することも検討すべきである。

## 【各論】

岡崎デザインシャレット | コーディネーター: 藤村龍至/天野裕/山田高広

チーフター: 恒川和久(名古屋大学)/間宮晨一(愛知県立大学)/佐々木勝敏/岩月美穂/栗原健太郎/稻垣淳哉/米澤隆/橋本健史/彌田徹/辻琢磨/浅野翔

物+テント等)の設定が必要である。イベント利用の現状は岡崎市外からも集客する広域イベント(来場者10,000人・店舗貸出80ブース)が年2回程度、康生地区周辺から集客するコミュニティイベント(来場者1,000人/10ブース程度)が年4回開催されており、中央緑道に80区画程度の貸出区画を整備すべきである。

#### [4] 貸出区画は以下の3つに分け、整備すべきである

- (a) 常設建築物 100m<sup>2</sup>/48m<sup>2</sup>(飲食店・インフォメーションセンター・倉庫等): 商業利用
- (b) 仮設建築物 15m<sup>2</sup>(キッチン・ギャラリー等) + 15m<sup>2</sup>(外部席等): コミュニティ利用
- (c) テント等 9m<sup>2</sup>(イベント): 商業+コミュニティ利用

※ デザインシャレットの検討により算出された各数値は、今後の検討によって変更される可能性があります。

#### [5] 新人道橋と東岡崎駅のあいだの駅前地区的歩行環境を合わせて整備すべきである。

## プロジェクトA

### 「中央緑道再生計画」について

#### [機能等についての考え方]

従来から計画されている四天王像の配置に加え、康生地区にぎわいを創出する仕掛けとして、以下の項目について検討すべきである。

- [1] 来街者のながれを喚起し、地区に循環する緑道計画: 東岡崎駅から康生地区へスムーズに人を引き込むために、東岡崎駅から新人道橋、中央緑道を経由し、籠田公園までの約800mの来街者の経路を想定し、その心理的抵抗を限りなく除去するような仕掛けが必要である。

心理的抵抗とは、「駅前の狭隘で秩序と風格の乏しい、街路空間」「賑わいや、人気の感じられない、オフィス等に偏った单调で閉鎖的都市空間」「来街者に散策の目的性を喚起し、明示するサイン・ランドマークの不足した歩行空間」「歩く楽しさの乏しい、斜度のみが存在する坂道空間」などである。

- [2] パークマネージメント: 地域住民のアメニティ・来街者サービス向上のための飲食店・インフォメーションセンター・公共トイレ等の公園機能の充足にあたっては、維持管理費用を確保するため、当該施設からの収益確保を前提に計画すべきである。その際、整備ならびに建築物等の設置は行政が担い、それらを民間事業者が運営管理し、市へ占用料や使用料を負担することを検討すべきである。

またこれは、リバーフロント地区を含む、市内の公共空間を活用した、町内会や、民間事業者、ボランティア団体などによる活動実績を都市経営的観点により再評価し、持続的な公共空間の運営へつなげるべきである。

#### [3] イベント時に対応した貸出区画(常設建築物+仮設建築

その際は施設を以下の3つの部分に分けて検討すべきである。

- (a) 民間事業者が建設費を負担し、民間事業者が運営(民営民営)する部分
- (b) 岡崎市が建設費を負担し、民間事業者が運営(公設民営)する部分
- (c) 岡崎市が建設費を負担し、岡崎市が運営(公設公営)する部分

## 【景観】

整備にあたっては、

- [1] 乙川北岸からの計画建物への眺め(シルエット・スカイライン)
- [2] 計画建物より、西側(明神橋方向)への眺め(ピスタ)
- [3] 南側住宅地からの計画建物への眺め、それらの地域に生じる圧迫感やプライバシーの弊害

に注意して配慮すべきである。

それぞれの眺めについては、計画建物を貫通する視線の抜けについての配慮が重要である。

これには、「建物を貫通する視線の抜け」が導くビスタライン(例えば岡崎城と東岡崎駅を結ぶなど)というランドマークの創出や、乙川から計画建物を介して市街地へ流れの風の抜けを含む、都市気候への影響、現在の河川敷からの上空へ広がる環境の継承、などを配慮すべきである。加えて、計画建物内の展示場等の機能を有する基壇部分とホテル客室等に用いられるタワー部分、隣接する西三河合同庁舎、マンション等既存建築物のサイズに留意することが望ましく、模型等を用いて慎重にその形態を決定すべきである。

## 【考慮すべきこと】

屋上利用はこの敷地、プログラム最大の可能性の一つである。河川空間との関係を意識した利用方法を検討すべきである。

## 岡崎市乙川リバーフロント地区 まちづくりに関する中間提言



# PROJECT TIMELINE

2013/2014/2015

8 9 10 11 12 2 3

## プロジェクトのタイムライン

### 平成25年度

- 岡崎活性化本部による乙川リバーフロント地区基本方針策定のための提言書発表
- 岡崎市による乙川リバーフロント地区整備基本方針策定

内田市長が公約で掲げた「乙川リバーフロント構想」の具体的検討に着手「重点施策の基本方針」「エリアテーマの基本方針」「推進体制」の3つをまとめた方針。

### 平成26年度

- 乙川リバーフロント地区整備基本計画策定

### 平成27年度

#### おとがわプロジェクト発足

【岡崎・乙川リバーフロントプロジェクト地区まちづくりデザイン事業】

観光産業都市の創造やコンパクトシティの実現に向けて、新人道橋、プロムナード、ライトアップなどの「ハード整備」、かわまちづくり支援制度等を活用した「ソフト事業」を基本計画としてまとめ、国・社会資本整備総合交付金に申請、採択された。

#### キックオフフォーラム開催

>>P2

分節された政策や都市空間整備の仕組みの再統合を図る先導的事業として、民間主導の官民連携まちづくりにシフトチェンジ。

Vol.1

#### 第1回シンポジウム開催

>>P3

#### デザインシャレット実施 [パブリックミーティング2回]

>>P4-9

#### シャレット展示会開催

#### おとがわキャラバン in 市役所 開催

デザインシャレットで提案された公共空間の活用案を発表する展示会。これらの提案に対して市民の意向や評価を伺うために市民投票を随時実施した。

#### 第2回シンポジウム開催

#### おとがわキャラバン in 籠田 開催

#### 中間提言発表

>>P10-11

#### まちづくりワークショップ① 開催

#### おとがわキャラバン in りぶら 開催

Vol.2

#### まちづくりワークショップ② 開催

#### 専門家デザインシャレット実施

#### グランドデザイン発表

#### グランドデザイン展示会開催

#### グランドデザインフォーラム開催

Vol.3

#### バックナンバー

『OTOGAWA

GRAND DESIGN Log』は、

平成27年度に

全3回の冊子発行と

概要版の発行を予定しています。

岡崎の将来を語る際は、

ぜひお手元に。

# NEXT EVENT

## まちづくりワークショップ①

乙川リバーフロント地区における「かわまちづくり」「中央緑道・籠田公園活用」「歴史観光まちづくり」「まちなかにぎわい創出」の4つのテーマについて、具体的な利活用の方法について意見を交わし、事業計画を練り上げていきます。

日時：10月25日[日] 13:30-16:30

会場：名鉄東岡崎駅岡ビル3階

定員：先着60人(各テーマ15人程度、申込不要)

対象：活動と一緒にしていきたい方(市民、事業者)、地域住民

## おとがわキャラバン in りぶら

「岡崎デザインシャレット展示会＆投票会」が、岡ビル、市役所に続いているりぶら館内にて開催。

日時：10月26日[月]-11月24日[火] 9:00-21:00  
(水曜の休館日を除く)

※11月14[土]、15[日] 10:00-17:00は

大学生(提案者)によるプレゼンテーションあり。

会場：図書館交流プラザりぶら お堀通り

## まちづくりワークショップ②

「かわまちづくり」「中央緑道・籠田公園」「歴史観光まちづくり」「にぎわい創出」の4つのテーマごとに、今後の活用提案や事業計画を発表します。当日は、意見交換の時間もあります。

日時：12月12日[土] 10:00-12:30

会場：名鉄東岡崎駅岡ビル3階

定員：先着100人(申込不要)

対象：活動と一緒にしていきたい方(市民、事業者)、地域住民

## リノベーションまちづくりシンポジウム vol.2

パネリスト：西村浩「発明の時代へようこそ」

日時：12月8日[火] 19:00-21:00

会場：社会福祉協議会サービスセンター

定員：先着100名(当日受付順)

対象：遊休不動産、公共空間を活用したまちづくりに興味のある方(市民、事業者など)

イベントの詳しい情報は、

<https://www.facebook.com/renovationcityokazaki>をご確認下さい。

発行元：岡崎市

発行日：2015年10月25日

監修：NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

編集：浅野翔

デザイン：刈谷悠三・角田奈央/neucitora

協力：武村彩加

問い合わせ先：

NPO法人岡崎まち育てセンター・りた

tel. 0564-23-2888

mail: otogawaproject@okazaki-lita.com

Facebook:

<https://www.facebook.com/1600839740165016>